

未滅菌CDH SOLERA 5.5/6.0 LONGI

再使用禁止

【禁忌・禁止】

- 適用対象(患者)
 - 金属アレルギーを有する患者
 - 活動性の感染過程にある患者又は免疫不全等の重大な感染リスクがある患者[敗血症等の重篤な合併症併発の可能性がある。]
 - 妊娠している患者[手術中の確認の際に使用するX線撮像による胎児の被ばく等がある。]
- 併用医療機器
ステンレススチール材質のインプラント及び他社製のインプラント(【使用上の注意】の「3.相互作用」の項参照)
- 使用方法
再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 形状(一例)

本添付文書に該当するインプラントの製品番号、サイズ等に関しては、包装表示ラベル又は本体に記載。

<脊椎ロッド>



<脊椎スクリュー(可動型)>



<ナット>



2. 機能

<脊椎ロッド>

脊椎を一定の形状に固定保持することを目的に使用するロッドである。脊椎ロッド以外の脊椎固定用材料と組み合わせて使用する。

<脊椎スクリュー(可動型)>

脊椎ロッド又は脊椎コネクタを脊椎に固定することを目的に使用するスクリューであり、スクリュー本体に可動・可変部の機能を有している。

<ナット>

各構成部品を固定するためのナットである。

3. 材質

チタン合金(ASTM F136)

チタン(ASTM F67)

コバルトクロム合金

4. 原理

脊椎スクリュー又は椎体フックを、ナットを用いて脊椎ロッドと締結することによって脊椎を固定する。また、トランスバース固定器を用いて複数の脊椎ロッドを並列に連結する。

【使用目的又は効果】

本品は、脊柱変形(側弯症、後弯症、前弯症)、外傷、腫瘍、変性椎間板症、脊椎すべり症、椎管狭窄症、偽関節等の脊椎障害のため、脊椎固定術の適用が必要とされる患者に対する胸椎、腰椎、仙椎及び肋骨の脊椎後方固定術に用いられる脊椎内固定器具であり、脊椎の一時的な固定、支持又はアライメント補正を行う。本品は経皮的に使用することが可能である。

【使用方法等】

本品は未滅菌の製品であるため、湿熱滅菌を施した上で使用すること。製造元が推奨する滅菌条件を以下に示す。(一例)

サイクル	温度	曝露時間	最低乾燥時間
前真空方式	134℃	20分	30分

本品の一般的手技は以下に示すとおりである。

【例1】

- 椎弓根にガイドワイヤーを挿入する。
- ダイレータを挿入し、脊椎スクリューを設置するための刺入路を作成する。
- タップを用いて脊椎スクリューの下穴を作成する。
- エクステンダーに脊椎スクリューを取り付ける。
- スクリュードライバを用いて、エクステンダーに取り付けた脊椎スクリューを椎弓根に挿入する。
- 脊椎ロッドの長さを決定し、ロッドインサーターに脊椎ロッドを取り付ける。必要に応じ、脊椎ロッドのベンディングを行う。
- 術中イメージ等で確認しながら脊椎ロッドを挿入し、エクステンダーのウインドウを通してスクリューヘッドに設置する。
- セットスクリュードライバ及びカウンタートルクを用いてナットの最終締結を行う。
- 閉創する。
- 原則として、骨癒合の完成を確認したら抜去を行う。

【例2】

- 椎体に脊椎スクリューを刺入する下穴を作製する。
- 脊椎スクリューを刺入する。
- 必要に応じ、椎体に椎体フックを設置する。
- 必要に応じ、脊椎ロッドのベンディングを行う。
- 脊椎ロッドを脊椎スクリュー上に設置する。
- 脊椎ロッド及び脊椎スクリューをナットで固定する。
- 必要に応じ、トランスバース固定器を設置する。トランスバース固定器は、既に脊椎に設置してある脊椎ロッドに、ナットを用いて固定する。
- 閉創する。
- 原則として、骨癒合の完成を確認したら抜去を行う。

本品は、当社が製造販売する下表の医療機器のうち、以下の構成部品と併用できる。

- φ5.5mm/φ6.0mmの脊椎ロッドに対応する構成部品※1
- φ5.5mm/φ6.0mmの脊椎ロッド※2

※1 滅菌済 LEGACY5.5/6.35 スパイナルシステム チタン製(承認番号:21700BZY00389000)及び滅菌済 LEGACY スパイナルシステム 2(承認番号:22000BZX01360000)の構成部品においては脊椎スクリューを除く。

※2 CDH SOLERA Lat. Connector システム(承認番号:22600BZX00046000)の構成部品である脊椎コネクタを含む。

本品の手技書を必ず参照すること。

販売名	承認番号
滅菌済ソファモアダネックロッド 純チタン製	21600BZY00454000
滅菌済 LOWPROFILE CROSSLINK システム チタン製	21700BZY00077000
滅菌済 X10 CROSSLINK システム チタン製	21700BZY00296000
滅菌済 LEGACY5.5/6.35 スパイナルシステム チタン製	21700BZY00389000
滅菌済 LEGACY スパイナルシステム 2	22000BZX01360000
CDH SOLERA 5.5/6.0 スパイナルシステム	22400BZX00373000
CDH SOLERA 5.5/6.0 スパイナルシステム Ti ロッド	22400BZX00374000
CDH SOLERA 5.5/6.0 スパイナルシステム CpTi ロッド	22400BZX00375000
CDH SOLERA 5.5/6.0 LONGITUDE スパイナルシステム	22600BZX00044000
CDH Rod Connector スパイナルシステム	22700BZX00369000
CDH SOLERA Lat. Connector システム	22600BZX00046000
TSRH-RP2 スパイナルシステム	22700BZX00381000
ProLock CROSSLINK システム	22700BZX00393000
CDH BALLAST トップローディングスパイナルシステム	22800BZX00353000
CDH BALLAST クローズドスパイナルシステム	22800BZX00352000
TRANSLACE Tethering システム	23000BZX00059000
CDH SOLERA Voyager システム 5.5/6.0	22900BZX00148000
CDH SOLERA 5.5 Perc システム Ti ロッド	22900BZX00149000
INFINITY OCT システム	23100BZX00074000
INFINITY OCT コバルトクロムロッドシステム	23100BZX00075000
CDH SOLERA Voyager ATMAS システム	30300BZX00305000
CDH SOLERA Voyager FNS システム	30300BZX00108000
CDH ModuLeX Connector システム	30400BZX00188000
CDH ModuLeX スパイナルシステム	30400BZX00189000
未滅菌 CDH SOLERA 5.5/6.0	30400BZX00289000
未滅菌 CDH SOLERA 5.5/6.0 Ti ロッド	30400BZX00290000
未滅菌 CDH SOLERA 5.5/6.0 CpTi ロッド	30400BZX00291000
未滅菌 CDH SOLERA 5.5 Perc Ti ロッド	30500BZX00020000

【使用方法等に関連する使用上の注意】

- 必要に応じて術中イメージを使用すること。
- ガイドワイヤーは深く刺し過ぎないように注意すること。タップを切り過ぎないこと。また、タッピング又はスクリュー刺入中にガイドワイヤーが更に深く刺入されないよう、又は変形若しくは損傷しないよう注意すること。ガイドワイヤーを抜き、無傷を確認すること。
- 脊椎スクリューがエクステンダーに正しく装着されているか確認すること。
- 脊椎ロッドがロッドインサーターに正しく装着されているか確認すること。
- 術中イメージで確認しながら脊椎ロッドを挿入し、エクステンダーのウインドウに通すこと。すべてのエクステンダーのウインドウに脊椎ロッドを通したあと、ロッドインサーターの先端がエクステンダーのウインドウに進入していないか確認すること。
- エクステンダーのウインドウに脊椎ロッドが通しにくい場合は、無理に挿入せず、正しい位置に脊椎スクリューを刺し直すこと。
- 脊椎ロッドをスクリューヘッドに設置したあと、術中イメージを用いて脊椎ロッドがスクリューヘッドに正しく設置されているか確認すること。
- ナットを締結する際、ベンディングした脊椎ロッドが体内で回転しないようにロッドインサーターを正しく保持すること。
- 脊椎ロッドを切断する場合は、切り口が鋭利にならないように注意すること。切断面は、ロッドの長軸に対して垂直になるよう切断すること。ロッドの切断は、術野外で行うこと。できる限り、必要な長さのブリカットロッドを使用すること。
- 脊椎ロッドのベンディングが必要な場合は、ゆっくりと徐々にベンディングさせること。ロッドを繰り返し曲げたり、過度に曲げたりしないこと。また、ロッドを同じ箇所では曲げ戻さないこと。
- コンストラクトの機能的強度が低下する可能性があるため、インプラントの表面に傷を付けないように細心の注意を払うこと。
- 骨移植を行う際は、可能な限り自家骨を移植すること。
- 脊椎スクリューの過剰な締め込みは、骨内のネジ山の圧壊又は固定を弱める原因となる可能性がある。また、マルチアキシャルスクリューの過剰な刺入は、可動性を制限することになり、正しい固定の妨げとなるので注意すること。
- 必要に応じて、1 つ又はそれ以上のトランスバース固定器を装着すること。トランスバース固定器は両側のロッドとの連結部においてその角度が垂直になるように装着すること。
- ナットを使用する際は、ねじ切った不要部分が術野内に残らないように注意すること。閉創前にねじ切った不要部分をすべて取り出したか確認すること。
- すべての脊椎スクリュー及びナットの締結が終了した時点で、その締結が緩んでいないことを確認してから術部を閉創すること。

【使用上の注意】

- 使用注意(次の患者には慎重に適用すること。)
 - 金属アレルギーの疑いがある患者
 - 骨吸収をきたす疾患、石灰化障害を呈する患者、骨が脆い患者(骨軟化症、骨粗鬆症等)[骨癒合不全、骨折又は本品が適切に固定できない可能性がある。]
 - 術部における炎症の徴候がある患者[症状増悪の可能性ある。]
 - 脊椎固定術の効果を妨げる可能性のある内科的又は外科的症候を有する患者(腫瘍、先天性異常の存在、術部周辺の骨折、原因不明の赤血球沈降速度の上昇、白血球数増加、白血球分画の著明な左方移動等)[術後合併症を起こす可能性がある。]
 - 先天性異常によって解剖学的構造が著しく歪んでいる患者[期待した効果が得られない可能性がある。]
 - インプラントの使用によって解剖学的構造又は通常の生理学的機能が損なわれる患者[期待した効果が得られない可能性がある。]
 - 病的肥満の患者[体重負荷によってインプラントの変形等の不具合を起こす可能性がある。]
 - 栄養不良[十分な骨代謝が行われない可能性がある。]
 - アルコール依存症又は薬物依存症患者[術後指示が守られない可能性がある。]
 - 喫煙者[骨癒合不全の可能性ある。]
 - 神経麻痺を有する患者[症状が悪化する可能性がある。]
 - 移植骨を十分量採骨できない、又は移植骨の骨質が十分でない患者[骨癒合不全等のリスクが高くなる可能性がある。]
 - 術部の組織が不十分な患者[術部の閉創が困難となる可能性がある。]
 - 精神疾患[術後管理が困難となる可能性がある。]

2. 重要な基本的注意

- 使用前にすべてのインプラント構成部品を洗浄・滅菌すること。
- 手術に際しては、当社が指定した手術器械を使用すること。
- 適宜、画像診断によって骨癒合及びインプラントの状態を確認すること。
- 骨癒合完成前の、過度な若しくは術後初期の体重負荷又は運動によって、インプラントの変形、緩み又は破損を併発する可能性があるため注意すること。
- 骨癒合遅延又は骨癒合不全が起こった場合、インプラントに繰り返し過剰な負荷がかかり、インプラントの変形、緩み又は破損を引き起こす可能性がある。
- 骨癒合完成のためには、医師の判断による適切な装具(外固定具)を適切な期間着用すること。
- 移植骨が癒合するまでの間、喫煙又はニコチン製品の使用及びアルコール摂取を控えるよう指導すること。また、非ステロイド性抗炎症薬(アスピリン等)は注意して処方すること。
- インプラントの抜去は医師及び患者が相談の上、決定すること。
- 非臨床試験によって、本品は MR Conditional であることが示されている。本品を埋植した患者に対して、以下に示される条件下においては、安全に MR 検査を実施することが可能である[自己認証による。]。

静磁場強度	1.5T 又は 3.0T
静磁場強度の勾配	27.9T/m(2,790Gauss/cm)以下
RF 励起	円偏光(CP)
RF 送信コイルタイプ	制限なし
RF 受信コイルタイプ	制限なし
MR 装置が示す全身平均 SAR (Specific Absorption Rate)	1.5T RF 条件 1: 30 分の連続撮像において、1.0W/kg 以下 RF 条件 2: 7.5 分の連続撮像及びそれに続く 3 分間の冷却期間を設けた場合において、2.0W/kg 以下(1 回の撮影で 3 回まで) RF 条件 3: 下記撮像領域に示す制限が遵守された場合において、2.0W/kg 以下
操作モード 通常操作モード	

	3.0T	RF 条件 1: 30 分の連続撮像において、1.8W/kg 以下 RF 条件 2: 15 分の連続撮像及びそれに続く 1 分間の冷却期間を設けた場合において、2.0W/kg 以下(1 回の撮影で 3 回まで) RF 条件 3: 下記撮像領域に示す制限が遵守された場合において、2.0W/kg 以下
連続撮像		30 分以内(上記各 RF 条件において) 1 回の撮像後、次の撮像までは 30 分の待機時間を設けること。
撮像領域		RF 条件 1 及び RF 条件 2: 制限なし RF 条件 3: 1.5T 及び 3.0T のいずれの撮像においても、本品が MR 装置のアイソセンタから少なくとも 30cm 離れていることを確認する。
アーチファクト		本品の撮像で生じ得るアーチファクトは本品の実像から最大 86mm である。

3. 相互作用(他の医薬品・医療機器等との併用に関すること。)

併用禁忌(併用しないこと。)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ステンレススチール材質のインプラント及び他社製のインプラント	腐食による不具合を生じるおそれがある。	ステンレススチール材質の場合、金属間の電位差によって腐食が発生する。他社製のインプラントは材質が不明であり、腐食が発生するおそれがある。

4. 不具合・有害事象

以下の不具合・有害事象の中には、対処のための手術時間の延長又は再手術が必要になる場合がある。

1) 重大な不具合

- (1) インプラントの緩み、分解、変形、移動及び破損
- (2) X 線、MRI、CT 画像へのハレーション等の干渉
- (3) MRI による発熱

2) 重大な有害事象

- (1) 破損したインプラントの体内遺残
- (2) 感染
- (3) 癒合不全(偽関節)、癒合遅延、癒合不良
- (4) 硬膜裂傷、偽髄膜瘤、フィステル(瘻孔)、持続的な脳脊髄液の漏出、髄膜炎
- (5) 麻痺(完全麻痺又は不全麻痺)、知覚不全、知覚過敏、知覚麻痺、感覚異常、神経根症の発症、疼痛、しびれ、神経腫、痙攣、感覚喪失、刺痛感覚、視力低下を含む神経機能の喪失(感覚神経又は運動神経)
- (6) 馬尾症候群、神経障害(ニューロパシー)、神経機能低下(一過性又は永続的)、対麻痺、不全対麻痺、反射の低下、神経性の疼痛、クモ膜炎、椎間板炎、その他の炎症、筋活動制限
- (7) 神経機能障害、神経周辺の圧迫、疼痛の原因となる可能性のある癒痕形成
- (8) 術部又はその隣接部位の椎骨(仙骨、椎弓根、椎体を含む)、移植骨、採骨部の骨折、微小骨折、骨癒合不全につながる骨吸収、損傷、穿孔、移植骨の後方突出
- (9) 疼痛、骨折、創傷治癒不良を含む採骨部の合併症
- (10) ストレスシールド(応力遮蔽)によって起こる可能性のある骨量減少
- (11) 術後の脊椎湾曲の変化、矯正・身長・整復の喪失
- (12) 術部又はその隣接部位の椎間板ヘルニア、椎間板破裂又は変性
- (13) 脊椎の可動性若しくは機能の喪失又は脊椎の不安定性の増強
- (14) 日常生活動作(ADL)の低下
- (15) 術部の骨成長停止の可能性

- (16) メタロシス、組織の着色、腫瘍形成又は自己免疫疾患を含むインプラント又はその破片及び腐食物(隙間腐食、フレッチング腐食又は一般腐食による)に対する異物(アレルギー)反応

- (17) 術部を閉創できない患者においては、インプラント構成品の組織への圧迫によって以下の症状が発生する可能性がある(皮膚穿孔、刺激性の炎症、線維化、壊死又は炎症性の疼痛)、滑液嚢炎

- (18) インプラントの不適切な配置又はインストゥルメントの不適切な使用が原因で起こる組織又は神経の損傷

- (19) 胃腸系障害(胃炎、腸閉塞、腸機能の低下等)

- (20) 呼吸器系障害(無気肺、気管支炎、肺炎等)

- (21) 心臓血管系障害(出血、血腫、閉塞、肺塞栓、塞栓症、高血圧、脳卒中、静脈炎、血管損傷、浮腫、漿液腫、創傷壊死、創傷離開等)

- (22) 泌尿器系障害(尿閉、膀胱機能障害等)

- (23) 生殖器系障害(不妊症、夫婦生活の喪失等の性機能障害を含む。)

- (24) 精神状態の変化

- (25) 死亡

3) その他の不具合

インプラントがその使用目的を完遂したあとも抜去されない場合、下記のような不具合が起こる可能性がある。

- (1) 局所的な組織反応又は疼痛を伴う腐食
- (2) 損傷に至る可能性のあるインプラントの転位
- (3) 抜去を不可能又は困難にする変形、緩み及び破損

4) その他の有害事象

インプラントがその使用目的を完遂したあとも抜去されない場合、下記のような有害事象が起こる可能性がある。

- (1) インプラントの存在に起因する疼痛、不快感又は知覚異常
- (2) ストレスシールドによる骨損失

5. 高齢者への適用

高齢者は一般的に骨量・骨質が低下している場合が多く、本品の緩み、固定不良等の不具合の発生頻度が高くなるおそれがあるため、慎重に適用及び術後管理を行うこと。

6. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

- 1) 妊娠している患者への適応については【禁忌・禁止】の「1.適用対象(患者)」の項を参照

- 2) 小児等に対する適用は、重要な基本的注意及び不具合・有害事象に加え、下記のような不具合・有害事象の可能性も考慮すること。

- (1) 解剖学的な問題(ペディクルの大きさ、骨格の歪み)によって脊椎スクリューの使用が不可能になる。

- (2) 神経損傷若しくは血管損傷を伴う、又は伴わない脊椎スクリューの位置不良

- (3) 後弯変形

- (4) 膝炎

- (5) 骨成長の抑制又は脊椎前方の継続的な成長による脊椎の回旋変形(クランクシャフト現象)

【保管方法及び有効期間等】

保管方法

1. 高温・多湿・直射日光を避けて室温で保管すること。
2. 水などの液体の影響を受けない場所に保管すること。

* 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者: メドトロニックソファモアダネック株式会社
カスタマーサポートセンター 0120-998-305

製造業者: メドトロニック ソファモアダネック ユーエスエー インク(米国)
[Medtronic Sofamor Danek USA, Inc]